



SEASON 夏



テーマ：出会う

今回のテーマは、【出会う】です。人や本、動物や植物、自然現象との出会いもありますよね。この夏、君に出会ってほしい一冊を紹介します。

☆『いのちのバトン 97歳のぼくから君たちへ』 日野原重明/詩と文 ダイヤモンド社
2017年7月、聖路加国際病院名誉院長 日野原重明が、105歳で天寿を全うされました。出会った子ども達にいのちの授業で伝えたかったメッセージは、『命とは、人間が持っている時間の事、その限りある時間をどう生きるかは君たちの自由です。』

その貴重な時間を少しだけ誰かの平和や福祉の為に使ったとしたら、そんな世の中になったら皆が幸せになれるのではないのでしょうか。

☆『星野道夫の仕事』1～4巻 星野道夫/文・写真 朝日新聞社

1996年8月、星野道雄は、ロシア・カムチャッカ半島で、TV取材中にヒグマに襲われて43歳で生涯を終えました。18歳の時にアラスカに魅せられ、26歳で初めて降り立ち、美しくも厳しい自然とその地で生きる先住民や動物、植物、オーロラ等に出会い、写真を撮り続けました。

過酷な自然環境での生命体は、なんと荘厳だろうと感じます。星野道夫の写真を是非、見てほしいです。



☆『シュヴァル 夢の宮殿をたてた郵便配達夫』 岡谷公二/著 福音館書店

シュヴァルの理想宮を知っていますか？シュヴァルは、郵便配達をしながら石と出会い、石を拾い続けました。やろうという意志さえ持ち続けるなら人間にはどんなことだってできると考え、33年かけて実行した人です。石を積み上げて完成した宮殿の写真は見る人の心を打ちます。

☆『アフリカの森の日々 わたしの愛したチンパンジー』

ジェーン・グドール/著 BL出版

10歳の時からアフリカで動物と暮らしたいと夢みていた少女がチンパンジーと出会い、研究者となってチンパンジーと心通わす日々の貴重な記録が愛をこめて綴られています。人間の皮を被っているか、チンパンジーの皮を被っているかの違いはあっても、人もチンパンジーも生きているものの魂は同じだと思える一冊です。

今年の夏は、君の人生でたった1度きり。運命の本との出会いで君の人生が変わるかもしれませぬ。